**２０２３年７月30日(土)　ヴェルウィン（ちくま）会場**

 窪田英治

 桃食みて酸素飽和度上がりをり 沼田布美

〇 氷穴に束の間の虹立つことも 国見敏子

 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

 戸をもるる冷気けむれる氷室かな 村上鞆彦

 蛇の殻くるんくるんと恋人来 国見敏子

 村上鞆彦

 氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治

 もてなしの瓜食み虚子の散歩道 松本千代美

〇 闌るとは色を得ること吾亦紅 本井　英

 秋を待つ風や高原美術館 新村美那子

 旅愁とは薄紅のねこじやらし 吉井素子

 鈴木淳子

〇 日盛の一歩踏み出す勇気かな 森　羽久衣

 朝の雲夏青空に解けゆく 久保千恵子

 切られても切られても生く夏の草 沼田布美

 向日葵の首を廻してゐたりけり 沼田布美

 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

 森羽久衣

〇 秋を待つ風や高原美術館 新村美那子

 栃の実のまだ稚きに歯が立たず 国見敏子

 山沿ひのわづかな影や雲の峰 原田淳子

 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

 盆近し漬物樽が氷穴に 窪田英治

 原田淳子

 緑陰に塔(あららぎ)語り来るを待つ 窪田英治

 夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

〇 戸をもるる冷気けむれる氷室かな 村上鞆彦

 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

 万緑の中に拓けし在の墓 吉井素子

 本井　英

 氷室より蕾の菊のひとかかへ 村上鞆彦

 氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治

 一鳥の鳴いて去りたる氷室かな 村上鞆彦

 とんぼうの被さつてをり吾亦紅 吉井素子

〇 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

 吉井素子

〇 水引草会へば優しくなつてをり 窪田英治

 夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

 日盛の小諸行つたり来たりして 森　羽久衣

 汗かいてかいて小諸の夏終る 新村美那子

 老鶯や川は光を溢れさせ 森　羽久衣

 新村美那子

 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

 一鳥の鳴いて去りたる氷室かな 村上鞆彦

〇 切られても切られても生く夏の草 沼田布美

 夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

 久保千恵子

 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

 夏手套はづして馬を撫でにけり 国見敏子

〇 老鶯や川は光を溢れさせ 森羽久衣

 水引草会へば優しくなつてをり 窪田英治

 石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

 沼田布美

 夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

〇 石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

 マニキュアの十指十色胡瓜揉み 松本千代美

 駅前の野外演奏月涼し 新村美那子

 松本千代美

 日盛の一歩踏み出す勇気かな 森　羽久衣

〇 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

 栃の実のまだ稚きに歯が立たず 国見敏子

 石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

 瓜きざむ母の手常に子を愛す 久保千恵子

 国見敏子

 姥百合の茎のなまめく氷室道 村上鞆彦

 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

〇 氷室より蕾の菊のひとかかへ 村上鞆彦

 柳蘭蕾の塔（あららぎ）を誇るかな 本井　英

 氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治